



町長のまちづくり奮闘記

～元気で笑顔のあふれる福島町を実現するために～

【新たな旅立と飛躍を願い…】

今年の春は例年に比べて少し足音が遅い感じがいたします。

毎年、三月一日に、高等学校の卒業式が卒業シーズンのトップを切つて行われますが、例年であれば雪解けが始まり三寒四温と共に春の兆しが見え始めるころですが、いまだ町全体が雪に覆われており、春がまだ遠く感じられます。しかし、広報4月号が皆様の手元に届く頃にはフキノトウが芽を出し、春の息吹がそこかしこに見て取れることと思います。

今年は何年と比べて雪が多かったのですが、昨年の秋にカメムシが異常発生した時、近所のおばさんが「カメムシが多い年は雪が多いので今年はずりと言っていた言葉が思い出されます。昔の人の生活の知恵に改めて関心をしているところです。三月一日（木）に、私

の母校でもある北海道福島商業高等学校の第六十四回卒業証書授与式に出席をさせていただき、今年も卒業生や保護者の皆様にお祝いを述べてまいりました。

その中で、今年卒業生に母校の先輩として、将棋界で初めて国民栄誉賞に輝いた永世七冠の「羽生善治氏」の「二十年、三十年、同じ姿勢で同じ情熱を傾けられることが才能だと思ふ」という言葉を贈らせていただきました。

自らの用が目覚めた人ならではの重みのある言葉ですが、故郷を巣立ちゆく二十三名の卒業生も、自らの役割を胸に社会で飛躍してくれることを期待しております。

三月二十日（火）に札幌市で「北海道庁や支庁総合振興局に派遣経験のある市町村長と道職員との懇談会」が開催され、参加をさせていただきました。

昭和六十年に私が北海道総務部地方振興室地方課へ一年派遣を希望し、道庁でオール北海道の視点で広い視野を持つて仕事をすること、様々なことを学ぶことができました。

その当時、上司だった現高木副町長と机を並べ一年間仕事をしたご縁で、今こうして当町で一緒に仕事をさせていただけいております。

現在、全道の市町村の数は、平成の合併を経て百七十九市町村となっております。それぞれの町に百七十九人の首長がおりますが、そのうち北海道への派遣経験のある市町村長の数は十四人となっており、長沼町長、雨竜町長、遠軽町長、蘭越町長、岩内町長、厚真町長、幌加内町長、中頓別町長、大空町長、新得町長、幕別町長、鶴居町長、比布町長及び福島町長となっております。

この会は、昨年初めて開催され、今回が二回目となりますが、高橋はるみ知事を囲んで、窪田副知事、北村地方創生局長及び今井地域づくり担当局長などの幹部の方々と交え、率直な情報交換をすることができ、他の首長とも様々な意見交換をする機会となりました。

私が町長に就任してからこのページで町長の仕事をわかりやすく説明するために始めたものが、今月で記念すべき第三十号となりました。

平成三十年の新年度を迎えるにあたり、町民の皆様の福祉の向上という理想に向かい、それを確かなものとするべく、倦まらず、弛まらず、焦らず、驕らず、目標の実現のため、職員と共に一年間全力で誠実にまちづくりの道を歩んでまいりたいと考えておりますので、町民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。